

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	備品 支払利息	1,900,000 100,000	営業外支払手形	2,000,000
2	諸資産	42,000,000	諸負債 資本金 資本準備金 負ののれん発生益	26,000,000 10,500,000 4,500,000 1,000,000
3	その他有価証券 有価証券利息	4,910,000 7,000	普通預金	4,917,000
4	当座預金 役務原価	600,000 400,000	役務収益 仕掛品	600,000 400,000
5	損益	200,000	支店	200,000

・解説

1. 固定資産の取得に関する問題です。

固定資産を割賦契約で購入した場合、現金販売価額と支払額合計との差額を**前払費用・長期前払費用**（資産）、**支払利息**（費用）などで処理します。

本問は、問題文に「利息相当額については、費用の勘定（支払利息）を用いて処理すること」という一文があるので、差額の 100,000 円に関しては**支払利息**で処理します。

- ・現金購入価額：1,900,000 円（＝@190,000 円×10 台）
- ・支払額合計：2,000,000 円（＝@400,000 円×5 枚）
- ・差額：2,000,000 円－1,900,000 円＝**100,000 円**

また、代金は手形を振り出して支払っているので**営業外支払手形**で処理します。うっかり支払手形を使わないように気をつけましょう。

- ・商品を仕入れたさいに振り出す手形：支払手形
- ・商品以外のモノ（ex.固定資産など）を購入したさいに振り出す手形：営業外支払手形

固定資産の取得に関する問題は、第 101 回の問 3や第 118 回の問 5、第 120 回の問 5、第 125 回の問 4、第 128 回の問 1、第 131 回の問 3、第 139 回の問 1、第 139 回の問 5、第 141 回の問 2、第 147 回の問 1、第 150 回の問 2でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. 企業合併に関する問題です。

他の企業を吸収合併する場合、被合併会社の資産・負債を**時価**で引き継ぎ、その対価として株式を交付したうえで、被合併会社の純資産（資産－負債）の額と交付した株式の額を比較して、**のれん**（借方に計上する場合）または**負ののれん発生益**（貸方に計上する場合）を計上します。

本問の場合、問題文に「諸資産（簿価：¥ 40,000,000、時価：¥ 42,000,000）」「諸負債（簿価：¥ 25,000,000、時価：¥ 26,000,000）」とあるので、被合併会社の純資産の額は16,000,000円（＝42,000,000円－26,000,000円）になります。

一方、交付した株式の額は、問題文の「新たに当社の株式1,500株（合併時点の時価：@¥ 10,000）を発行し、これをブロードウェイ株式会社の株主に交付した」という一文から、15,000,000円（＝1,500株×@10,000円）ということが分かります。

この結果、16,000,000円が価値のある会社を15,000,000円で手に入れたことになるので、**差額の1,000,000円を負のれん発生益（特別利益）として処理**します。

なお、新たに交付した株式に関しては、問題文に「取得の対価のうち70%を資本金、残り30%を資本準備金として計上することとした」とあるので、指示に従って資本金・資本準備金勘定で処理します。

- ・資本金：15,000,000円×70%＝10,500,000円
- ・資本準備金：15,000,000円×30%＝4,500,000円

企業合併に関する問題は、第102回の問5や第129回の問1でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 有価証券の購入に関する問題です。

本問は、取引を【有価証券の購入に関する仕訳】と【利息の支払いに関する仕訳】に分けて解答を考えましょう。

■有価証券の購入に関する仕訳

社債を購入した場合、購入代価と付随費用（取得に伴い発生した費用）の合計額を取得原価として資産計上しますが、本問は付随費用が発生していないので、購入代価を計算するだけです。

$$\text{取得原価} = \text{購入代価} + \text{付随費用} = (5,000,000 \text{円} \times @98.20 \text{円} / @100 \text{円}) + 0 \text{円} = \mathbf{4,910,000 \text{円}}$$

なお、本問は問題文の「長期にわたる取引関係を維持する目的で」から、**その他有価証券**で処理します。

- ・短期間で売買する目的で購入：売買目的有価証券で処理
- ・満期まで保有する目的で購入：満期保有目的債券で処理
- ・その他の目的（長期保有など）で購入：その他有価証券で処理

★解答①・有価証券の購入に関する仕訳

(借) その他有価証券 4,910,000 / (貸) 普通預金 4,910,000

■利息の支払いに関する仕訳

問題文に、「利払日：毎年9月と3月の末日、年利率：0.73%」とあり、購入日が12月9日なので、前回の利払日の翌日の10月1日から12月9日までの**70日分（31日＋30日＋9日）**の端数利息を計算します。

$$\text{有価証券利息} = 5,000,000 \text{円} \times 0.73\% \times 70 \text{日} / 365 \text{日} = \mathbf{7,000 \text{円}}$$

★解答②・利息の支払いに関する仕訳

(借) 有価証券利息 7,000 / (貸) 普通預金 7,000

以上、①②の仕訳をまとめると解答仕訳になります。

ところで、上記の仕訳について、なぜ社債購入時に「前回の利払日の翌日から購入日までの端数利息」を支払わなければならないかはお分かりですか？

社債を購入すると次回の利払日（本問の場合は3月末日）に半年分の利息を受け取ることになりますが、購入時に「前回の利払日の翌日から購入日まで端数利息」を先に支払っておかないと、保有していなかった期間（10月1日から12月9日まで）の分まで余分にもらってしまうことになるからです。

・購入日（12月9日）：前回の利払日の翌日から購入日までの70日分の端数利息を支払う

・次回の利払日（3月31日）：半年分の利息を受け取る

→「半年分の利息－70日分の利息」で**保有期間に見合った有価証券利息**が計上される

質問掲示板でもよくお問い合わせいただく論点なので、上記の考え方・処理方法をきちんと押さえておきましょう。

有価証券の購入に関する問題は、第102回の間3や第124回の間4、第130回の間1、第140回の間4、第143回の間1、第144回の間5、第149回の間2でも出題されているので、あわせてご確認ください。

4. 役務収益・役務原価に関する問題です。

問題文に「以前に支払った給料・旅費交通費のうち、給料 ¥ 300,000 および旅費交通費 ¥ 100,000 が特定の案件のために直接費やされたものであることが明らかであったため、これらを仕掛品勘定に振り替えていた」とあるので、まずは以前に切った仕訳をまず考えてみましょう。

☆参考・以前に切った仕訳1（給料・旅費交通費の支払時の仕訳）

（借）給料 ××× / （貸）現金など ×××

（借）旅費交通費 ×××

☆参考・以前に切った仕訳2（給料・旅費交通費の一部を仕掛品に振り替える仕訳）

（借）仕掛品 400,000 / （貸）給料 300,000

（貸）旅費交通費 100,000

次に、問題文に「上記案件にかかるコンサルティングサービスの提供が無事完了し、対価として ¥ 600,000 が当座預金口座に振り込まれた。役務収益の発生にともない、対応する役務原価を計上することとした」とあるので、役務収益を計上するとともに、先に計上していた仕掛品を役務原価に振り替えましょう。

★解答仕訳

（借）当座預金 600,000 / （貸）役務収益 600,000

（借）役務原価 400,000 / （貸）仕掛品 400,000

本問のように、役務収益と役務費用の発生のタイミングが異なる場合は、役務費用をいったん仕掛品勘定で処理しておいて、役務提供が完了したタイミングで役務原価勘定に振り替えます。

一方、役務収益と役務費用の発生がほぼ同時の場合は、仕掛品勘定を経由する必要性が乏しいので、そのまま役務原価勘定で処理します。参考までに以下の仕訳をご確認ください。

■参考問題：旅行業も営む株式会社ネットラボは、1泊3日のシンガポール弾丸ツアーを企画したところ、顧客4名からの申し込みがあり、ツアー代金の合計 ¥ 400,000 を現金で受け取った（適切に処理済み）。本日、予定通り弾丸ツアーを催行し、添乗員への報酬や宿泊代、交通費などの諸経費 ¥ 300,000 を現金で支払った。

☆参考1・ツアー代金受取時の仕訳

(借) 現金など 400,000 / (貸) 前受金 400,000

☆参考2・ツアー代金受取時の仕訳

(借) 役務原価 300,000 / (貸) 現金 300,000

(借) 前受金 400,000 / (貸) 役務収益 400,000

役務収益・役務原価に関する問題は、第150回の間1でも出題されています。あわせてご確認ください。

5. 本支店会計に関する問題です。

今回は本店の仕訳のみが問われていますが、本店と支店の仕訳は必ず対応しているの、本問のように難度が高い場合は本店・支店両方の決算振替仕訳から解答仕訳を考えましょう。

まずは、支店の決算振替仕訳からです。問題文に「当期純損失 ¥ 200,000 を計上した」とあるので、仮に諸収益の金額が300,000円、諸費用の金額が500,000円であったとすると、以下のような仕訳になります。

☆参考・支店の決算振替仕訳1

(借) 諸収益 300,000 / (貸) 損益 300,000

(借) 損益 500,000 / (貸) 諸費用 500,000

次に、上記の仕訳で残った損益を…いつもであれば繰越利益剰余金に振り替えますが、支店には純資産の勘定がありません（代わりに本店勘定があります）ので、**借方残200,000円の損益を本店勘定に振り替えます。**

☆参考・支店の決算振替仕訳2

(借) 本店 200,000 / (貸) 損益 200,000

次に、本店の決算振替仕訳を考えます。諸収益・諸費用を損益に振り替えるのは同じです。

☆参考・本店の決算振替仕訳1

(借) 諸収益 ××× / (貸) 損益 ×××

(借) 損益 ××× / (貸) 諸費用 ×××

諸収益・諸費用を損益に振り替えたら、このタイミングで支店の損益を受け入れます。支店の仕訳の借方が「本店」なので、本店の仕訳の貸方に「支店」が入ります。

★解答・本店の決算振替仕訳2

(借) 損益 200,000 / (貸) 支店 200,000

本支店会計に関する問題は、第116回の間3や第121回の間1、第126回の間5、第137回の間1、第140回の間2、第142回の間5でも出題されているので、あわせてご確認ください。